

第 77 回全国高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（香川大会） 実施報告書

事項	内 容
事業名	第 77 回全国高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会（香川大会）
期日	令和 7 年 6 月 12 日（木）～13 日（金）
開催場所	レクザムホール（香川県県民ホール）、香川県立ミュージアム
主催	全国高等学校通信制教育研究会、四国地区高等学校通信制教育研究会
後援	文部科学省 徳島県教育委員会 香川県教育委員会 愛媛県教育委員会 高知県教育委員会 NHK NHK出版（公財）全国高等学校定時制通信制教育振興会 全国高等学校定時制通信制高等学校校長会 全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 香川県高等学校定時制通信制教育振興会 全国私立通信制高等学校協会 香川県高等学校長協会 香川県高等学校教頭会 香川県高等学校定時制通信制教頭会
参加者	111 校 356 名（来賓、NHK、NHK出版等含む）
実施目的	今日の通信制高等学校は、近年の義務教育段階の不登校児童生徒数の増加を背景に、さまざまな困難や課題を抱える生徒の学びのセーフティーネットとして、重要な役割を担っている。そのため、限られた登校回数下でも教育の質を確保し、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく確実に育成することで学力を保障するとともに、生徒一人ひとりに寄り添った支援により、全人的な発達・成長を促し、生徒が自らの人生を切り拓いていく力を育成することが期待されている。教育分野においても急速な変化が起こりつつある現在、通信制高等学校に期待される役割を十分に果たすため、これまでの取組の成果を共有するとともに、今後の通信制教育の在り方、通信制教育の新たな可能性について研究協議を行う。
実施内容	<p><u>令和 7 年 6 月 12 日（木）</u></p> <p>※全国通信制高等学校校長会総会（10:15～11:15） 開会式（12:00～12:30） 総会（12:30～13:20） 研究協議会セレモニー（13:25～13:40） 文部科学省講演（13:40～14:20） 講師：文部科学省初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付参事官補佐 度會 友哉氏 演題：「通信制高校の現状と文部科学省の取組について」 研究協議会（分科会）（15:00～17:00） 第 1 分科会（学校運営）143 名 第 2 分科会（英語）23 名 第 3 分科会（理科）31 名 第 4 分科会（総合的な探究の時間）49 名 第 5 分科会（放送教育）69 名 第 6 分科会（人権教育・教育相談）46 名 (参加者数は二日間のまとめ。初日と二日目で別の分科会に参加した人もいるため、 合計人数は参加者総数と一致しない。)</p> <p><u>令和 7 年 6 月 13 日（金）</u></p> <p>研究協議会（分科会）（9:00～10:15） 上記 6 分科会 記念講演（10:30～11:30） 講師：瀬戸内ナーシング学院学校長、高知大学大学院客員教授 岡田 倫代 氏 演題：「生徒が輝く未来を描けるように—教師が紡ぐ信頼と寄り添う心—」 全体協議会（11:40～12:15） 閉会式（12:15～12:30）</p>
参加費	加盟校：7,000 円 一般参加：10,000 円

成果	<p>昨年度の広島大会に続き香川大会も対面開催となり、参加者は356名で広島大会よりは少なかったものの、想定よりは多くの方に参加していただくことができた。</p> <p>文部科学省講演では、文部科学省初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付参事官補佐 度會友哉様より「通信制高校の現状と文部科学省の取組について」の演題でご講演いただき、通信制高校を取り巻く最新の状況や文部科学省としての政策的な方針、支援の取り組みについて、非常に分かりやすく、かつ具体的にご説明いただいた。通信制高校が果たす社会的役割やその重要性について改めて認識を深めるとともに、多様な学びを支えるための環境整備の必要性についても深く考えさせられる機会となつた。</p> <p>第1分科会（学校運営）では、学校運営に関して5校6名の先生方から発表があつた。卒業に向けた生徒の意欲向上を図る様々な制度上の工夫をはじめ、通信制におけるICT・DX化の中心的課題といえるレポートの提出・採点業務のデジタル化のほか、バーコードスキャナを用いた出席管理により高い効率性と正確性が実現されたことが示されるとともに、こうした取組をこれから進めていくうとする際に想定される困難や課題についても、具体的な事例や動画などを示しながら説明があつた。参加者による活発な質疑応答の後、指導助言者より、ICTを効果的に活用しながらも「デジタルか紙か」の二項対立ではなく、「生徒の学びの充実につながるのはどちらか」という視点に立った、両者のバランスの取り方が今後の学校運営の鍵になるということ、そしてそれぞれの良さを生かしながら、添削指導と面接指導のつながりを密にしていくことが重要であるなど、多くのご助言をいただくことができた。</p> <p>第2分科会（英語）では、山形県立霞城学園高等学校と岡山県立岡山操山高等学校の2校の実践発表があつた。研究協議では、学力層の広い通信制高校の面接指導における指導の工夫についてや、観点別評価（特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価）の方法について、活発な意見交換が行われた。</p> <p>第3分科会（理科）では、愛知県立刈谷東高等学校による、生徒の興味・関心を高めるために楽しむ要素を取り入れた地学基礎の面接指導についての実践報告と、賢明学院高等学校による、特別活動のフィールドワークを理科の学習内容と関連付けて行うことで理科への興味・関心が高まり学びが深まつていったという実践報告があつた。研究協議では、各校の取組と課題等について活発な質疑応答が行われた。</p> <p>第4分科会（総合的な探究の時間）では、目黒日本大学高等学校による、指標実現に向けて生徒の成長を測るループリックを開発し、それにより目標に対する生徒の立ち位置を可視化できるようにした実践発表と、熊本県立湧心館高等学校による、課題研究を通して主体的に学習に取り組む態度をどのように高めていくかという実践発表があつた。研究協議では、各校の取組と課題等について活発な質疑応答が行われるとともに、総合的な探究の時間で課題研究の校内発表会を実施している複数の学校から実践例についての情報提供があつた。</p> <p>第5分科会（放送教育）では、香川県立高松高等学校と奈良県立大和中央高等学校による各校での放送教育教材活用の工夫に関する実践報告と、NHK学園高等学校による、実際に生徒がどのようにNHK高校講座を視聴していたかの分析についての研究発表があつた。研究協議では、各校の取組、放送教育教材の活用等についての活発な質疑応答・意見交換が行われた。また、NHKの担当者からNHK高校講座等の視聴に影響がある改正放送法についての情報提供もあつた。</p> <p>第6分科会（人権教育・教育相談）では、高松中央高等学校による自己受容の観点別の変化を分析した実践報告と、富山県立雄峰高等学校による学校生活アンケートを活用した支援のあり方の工夫に関する実践報告があつた。研究協議では、各校の取組への活発な質疑応答とともに、生徒の把握が難しい在籍生徒が1000～2000名にもなる大規模校での生徒支援の方法について意見交換が行われた。</p> <p>記念講演では、瀬戸内ナーシング学院学校長の岡田倫代様に「生徒が輝く未来を描けるように—教師が紡ぐ信頼と寄り添う心—」の演題でご講演いただいた。定時制高校や大学での豊富なご経験と専門的な知識をもとに、多様な生徒の教育・支援に日々</p>
----	--

	携わる我々通信制の教員の心に響くお話ををしていただき、明日からの教育実践に役立つ情報と、前向きに生徒の支援に取り組む勇気をいただける機会となった。
--	---

【研究協議会（分科会）での発表】

分科会	分野	発表学校名	発表テーマ
第1 分科会	学校運営	茨城県立水戸南高等学校 千葉県立千葉大宮高等学校	【本部】 通信制高校における「学校環境」、「指導内容」、「サポート体制」の理想と現実
		青森県立八戸中央高等学校	事例発表① 教育DXへの挑戦～働き方改革×八中央令和型教育システム～
		東海大学付属望星高等学校	事例発表② 東海大学付属望星高等学校の電子レポートについて
		綾羽高等学校	本校における学校運営の現状と課題
第2 分科会	英語	山形県立霞城学園高等学校	本校英語教育の現状と課題
		岡山県立岡山操山高等学校	本校の英語教育の実践について
第3 分科会	理科	愛知県立刈谷東高等学校	アウトプットを軸として、存在感のある地学基礎へ
		賢明学院高等学校	通信制ならではの興味・関心を引き出す理科教育へのチャレンジ～特別活動を活用したフィールドワーク～
第4 分科会	総合的な 探究の時間	目黒日本大学高等学校	「総合的な探究の時間」とルーブリックによる評価基準
		熊本県立湧心館高等学校	本校の現状と総合的な探究の時間の取り組み～通信制課程における課題研究の実践と評価について～
第5 分科会	放送教育	香川県立高松高等学校	生徒の学習意欲向上のための放送教育教材の効果的な活用・開発
		奈良県立大和中央高等学校	効果的な放送教材の活用について～本校における放送教育の取組～
		NHK学園高等学校	NHK高校講座の実態について～世界史探究と倫理からみえてきたもの～
第6 分科会	人権教育・ 教育相談	高松中央高等学校	通信制課程に求められる自己肯定感を高める指導実践
		富山県立雄峰高等学校	通信制高等学校における多様な生徒へのよりよい支援の在り方